



2025.10.01 第66号 世界を彩るタイダイ柄①

タイダイは英語の「Tie-dye」からきて、布を紐で縛って(Tie)染める(Dye)手法で、縛った部分を解いた時にできる独特な模様のことです。タイダイ柄は、何千年も前から世界中でずっと続いている芸術です。様々な文化にタイダイの技法が使われていて、それぞれに特別な意味があるデザインや作り方が数え切れないほどあります。今回は世界各地のタイダイについて紹介したいと思います。

タイダイの発祥

タイダイの発祥ははっきりと分かっていません。なぜかという、布は時間の流れとともに劣化され、保存しにくい材料だからです。しかし、タイダイの最も古い記録は、インドと中国とペルーにあると考えられています。その中でも、最も古い技法はインドの「バンドニ(Bandhani)」といわれています。少しだけの布を糸できつく縛って、染め粉に入れ、細かいデザインが出来上がります。この技法は現在でも受け継がれています。



日本

皆さんもご存じかもしれませんが、日本でタイダイは「絞り」と呼ばれています。奈良時代からずっと続いている素敵な芸術です。様々なデザインや手法があり、でき上がった布は着物や浴衣などでよく使われています。「かのこ絞り」は数え切れないほど沢山の小さな絞りでデザインを作り、できあがった時、きれいで細かい模様が現れます。他にも「絞り」はより大きいデザインでもできるので、可能性は無限大です！私は着物オタクなので、日本の絞りも大好きです。名古屋にある有松(ありまつ)では、江戸時代から続いている絞り染め工房があって、昔ながらの町並みを楽しむだけでなく、絞りの歴史や作り方についても詳しく知ることができます。絞り染め体験もあります。是非、訪れてみてください！



CIRのつぶやき

国際交流 国際理解教育 国際協力
国際観光 多文化 相互理解友好を図る



2025.10.01 第66号 世界を彩るタイダイ柄②

アフリカ

タイダイはアフリカでも長く続いている芸術です。アフリカの地域によってデザインや手法が異なります。藍色がよく使われますが、他の色も使われています。染め粉は化学物質ではなく、植物から出来ていて、より長く保存することができます。ナイジェリアでは、染める時に土に埋めた土鍋を使います。糸で縛る手法だけでなく、折りたたんだり、括ったりする技法があります。模様と色には文化的な意味があり、アフリカ人にとって大切なものです。



アメリカ

アメリカでは、タイダイは20世紀の始めから人気がありましたが、現在アメリカでよく見られるタイダイの模様は1960年代に始まりました。タイダイのTシャツやヘッドバンドなどはヒッピースタイルには欠かせないものです。鮮やかな色を着るのは一般的な服とは異なり、カウンターカルチャーの象徴となりました。そのブームから、タイダイのグッズが普及して、自分でタイダイ染めをするのが子供から大人まで人気がある遊びになりました。そのため、アメリカではサマーキャンプとタイダイのイメージが強く結びついています。アメリカに旅行したら、必ずお土産屋さんにはタイダイグッズがあると思います。

コロナとタイダイ

アメリカでは最近、ファッション業界でタイダイが再びブームとなりました。2020年にコロナの影響で、多くの人が新しい趣味に挑戦しました。白い布に色染め粉を使ったり、黒い布と漂白剤を使ったりと、多くの人がタイダイを楽しく作り始めました。趣味だけでなく、ファッションブランドはブームを生かして、オシャレなタイダイ柄の服を発売しました。特に部屋着のデザインとして人気になりました。多くの人が家で過ごしたので、これは自然なことだろうと思います。2025年の現在、2020年ほどのブームはありませんが、まだ多くの店でタイダイ柄を見つけることができます。

